

《履修上の留意事項》この科目は、1回目 2 回目および8回目～15回目を20グループに分けて、21名の各担当教員が同時開講で演習を行う

演習への積極的な参加と自らの行動を振り返ることに重点が置かれており、リフレクションシートの配点が高い。

欠席するとその回の点数が0点となるので注意すること。

《担当者名》○本家寿洋 honke@hoku-iryo-u.ac.jp 田村至 巻康弘 宮地普子 武田涼子 澤田篤史 大須田祐亮 佐藤一成
用田歩 鎌田樹寛 坂上哲可 斎藤隆司 飯泉智子 若松千裕 前田秀彦 内ヶ島伸也 常田美和 山田拓 近藤尚也 鈴木和 橋本菊次朗

【概要】

医学的な視点のみならず、対象者の心理的・社会的な視点にも配慮した医療が求められる中でチーム医療は必須の手段であり、より良いサービスを実践するためには多職種との有機的な連携と協業は欠かせない。本講義では、専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実践についてそれぞれの専門的な立場から考察し、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。また、学部学科をこえたグループワーク演習を通じ、コミュニケーションやディスカッションの実践力を身につける。

【学修目標】

一般目標

医療や福祉の現場で他の専門職種と連携協業していくために、必要な知識や態度、コミュニケーション技術を身につける。

行動目標

1. 多職種連携において患者、利用者を中心とした視点が持てる。
2. 多職種連携における各専門職の教育背景が異なることを配慮して他学科の学生と意見交換ができる。
3. 演習を通してグループ内で信頼関係を築ける。
4. 多職種連携におけるそれぞれの専門職の役割を理解し、説明できる。
5. 演習での議論を円滑に進めるために協力することができる。
6. 自分自身のふるまいを内省し、考えや価値観を再構築できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1・2	オリエンテーション	授業の進め方、課題の提出方法などについて理解する。アイスブレイキングを通してグループメンバーを理解する。	全担当教員
3	多職種連携の必要性とかたち	多職種連携が求められる背景、その重要性について学ぶ。	オンデマンド
4	多職種連携に関わる各職種の役割	病院や地域において多職種連携に関わる各職種の役割について学ぶ。	オンデマンド
5	多職種連携に必要な技術1	カンファレンス等、多職種で行う情報交換、意思決定の方法とディスカッションを円滑に進めていくためのファシリテーターの役割について学ぶ。	オンデマンド
6	多職種連携に必要な技術2	多職種が連携することで生じるコンフリクトに対するマネジメント方法について学ぶ。	オンデマンド
7	多職種連携に必要な技術3	医療、保健、福祉の共通言語であるICFについて理解しICFに従って情報を整理する方法について学ぶ。	オンデマンド
8・9	多職種連携演習	オンデマンド授業で学んだ多職種連携に必要な技術を用いた演習を通じて円滑な議論の進め方を学ぶ。	全担当教員
10・11	多職種連携演習	各職種の視点で問題点を整理し、他職種に伝える方法について、現職の専門職を交え演習を通じて学ぶ。 特別講師：星野由利子、上田 学、下倉賢士	全担当教員
12・13	多職種連携演習	各職種から出された問題点を共有し、目標をチーム内で統一するプロセスについて現職の専門職を交え演習を通じて学ぶ。	全担当教員

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		特別講師：星野由利子、上田 学、下倉賢士	
14・15	多職種連携演習	チームでまとめた問題点を解決し、目標を達成するために、それぞれの職種が担う役割について整理し、介入方法を立案するプロセスについて現職の専門職を交え演習を通して学ぶ。 特別講師：星野由利子、上田 学、下倉賢士	全担当教員

【授業実施形態】

遠隔授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

小テスト50%、演習後のリフレクションシート50%

【教科書】

篠田道子 著 「多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル」 医学書院 2011年

【参考書】

北島政樹 著 「医療福祉をつなぐ関連職連携-講義と実習にもとづく学習のすべて」 南江堂 2013年

埼玉県立大学 編 「IPWを学ぶ-利用者中心の保健医療福祉連携」 中央法規出版 2009年

【備考】

オンデマンド授業は5回分を視聴し、視聴後に小テストを必ず受けること。

演習 ~ のグループワークは、限2コマ授業を原則とし、開講日は別途指示する。

【学修の準備】

オンデマンド講義や演習の予習は、事前に配布される資料を読むことや、関連する内容の教科書を読んだうえで参加すること（2時間程度）。

オンデマンド講義後の復習は、数回オンデマンドを視聴して内容を説明できるようにする。また、演習の復習は実施した内容をもとに何を学んだのかを説明できるようにする（2時間程度）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

本家寿洋（作業療法士）田村至（言語聴覚士）巻康弘（社会福祉士）宮地普子（看護師）武田涼子（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での各領域での臨床経験を活かし、リハビリテーションにおける多職種連携について講義を行う。